

**IBM Marketing Platform**

バージョン 9 リリース 1.1

2014 年 11 月 26 日

**システム・テーブル**

**IBM**

**お願い**

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、39 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Marketing Platform バージョン 9 リリース 1 モディフィケーション 1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

**原典：** IBM Marketing Platform  
Version 9 Release 1.1  
November 26, 2014  
System Tables

**発行：** 日本アイ・ビー・エム株式会社

**担当：** トランスレーション・サービス・センター

**© Copyright IBM Corporation 1999, 2014.**

---

## 目次

第 1 章 本書について . . . . .	1	プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考 慮事項 . . . . .	41
Marketing Platform の資料とヘルプ . . . . .	1		
第 2 章 IBM Marketing Platform システ ム・テーブル・リファレンス . . . . .	3		
IBM 技術サポートに問い合わせる前に . . . . .	37		
特記事項 . . . . .	39		
商標 . . . . .	41		



---

## 第 1 章 本書について

このセクションでは、本書の目的と対象に関する概要、および使用条件について説明します。

### 本書の目的

本書は、統合のために IBM® Marketing Platform データ・モデルを理解できるようにすることを目的としています。

**重要:** (ユーザー・インターフェースを使用しないで) Marketing Platform システム・テーブルを直接変更すべきではありません。Marketing Platform システム・テーブルを直接変更すると、Marketing Platform の機能に問題が生じる可能性があり、発生した問題を IBM 技術サポートが解決することがより困難になる場合があります。

### 使用条件

本書に含まれる情報は、IBM に属する機密および専有の情報であるため、現在有効な機密保持契約に従う場合のみ使用できます。

この情報を共有する場合は、社内の関係者のみに限る必要があります。本書に含まれるデータが公開されるのを保護する、現在有効な IBM に関する機密保持契約がお客様の会社にあるかどうかを確認できない場合、この資料を使用し続けず、IBM にすぐに返却してください。

### 将来のシステム・テーブルの変更

IBM は、システム・テーブル・スキーマおよび Marketing Platform 製品に関するこの資料の内容をいつでも変更する権利を保有します。Marketing Platform システム・テーブルを使用するカスタム統合の開発を選択する場合、Marketing Platform システム・テーブルの今後のリリースで使用できるように、これらのコンポーネントを確認し、必要に応じて変更する必要があります。

Marketing Platform システム・テーブルを使用する、カスタム開発された拡張機能またはサード・パーティーの拡張機能については、後方互換性および自動移行は保証されません。IBM は、この製品の一部として出荷された Marketing Platform アプリケーションまたは標準ツールによる標準的なアプリケーションの使用以外には、いかなる Marketing Platform システム・テーブルの使用もサポートしません。

---

## Marketing Platform の資料とヘルプ

IBM Marketing Platform では、ユーザー、管理者、および開発者を対象とした資料とヘルプを用意しています。

表 1. 起動して稼働状態にする

タスク	資料
新機能、既知の問題、および回避策のリストを表示する	IBM Marketing Platform リリース・ノート

表 1. 起動して稼働状態にする (続き)

タスク	資料
Marketing Platform データベースの構造について学習する	IBM Marketing Platform システム・テーブル
Marketing Platform をインストールまたはアップグレードし、Marketing Platform Web アプリケーションを配置する	以下のいずれかのガイド: <ul style="list-style-type: none"> <li>IBM Marketing Platform インストール・ガイド</li> <li>IBM Marketing Platform アップグレード・ガイド</li> </ul>
IBM EMM に備わっている IBM Cognos® レポートを実装する	IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド

表 2. Marketing Platform の構成と使用

タスク	資料
<ul style="list-style-type: none"> <li>IBM 製品の構成とセキュリティーの設定を調整する</li> <li>LDAP などの外部システムと Web アクセス制御を統合する</li> <li>SAML 2.0 ベースのフェデレーテッド認証を使用して、さまざまなアプリケーションにシングル・サインオンを実装する</li> <li>ユーティリティーを実行して IBM 製品に対するメンテナンスを実行する</li> <li>監査イベントの追跡を構成して使用する</li> <li>IBM EMM オブジェクトの実行をスケジュールする</li> </ul>	IBM Marketing Platform 管理者ガイド

表 3. ヘルプの取得

タスク	説明
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ヘルプ」&gt;「このページのヘルプ」と選択し、コンテキスト・ヘルプ・トピックを開きます。</li> <li>ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示 (Show Navigation)」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。</li> </ol>
PDF の取得	<p>以下のいずれかの方法に従います:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ヘルプ」&gt;「製品資料」と選択して、Marketing Platform の PDF およびヘルプにアクセスします。</li> <li>利用可能なすべての資料へアクセスするには、「ヘルプ」&gt;「IBM EMM Suite のすべての資料」を選択します。</li> </ul>
サポートを受ける	<a href="http://www.ibm.com/support">http://www.ibm.com/support</a> に移動して、IBM サポートのポータルにアクセスします。

## 第 2 章 IBM Marketing Platform システム・テーブル・リファレンス

このセクションでは、各 IBM Marketing Platform システム・テーブルの詳細を提供します。

表に示すデータ型は、システム・テーブルに使用されるデータベースに応じて、ご使用の Marketing Platform インストール済み環境で異なる可能性のある汎用タイプです。

### USM\_USER

ユーザーに関する情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	ユーザーの内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	256	false	ユーザーのログイン名。
PASSWORD	VARCHAR2	100	true	ユーザーのパスワード・ハッシュ。
FIRST_NAME	VARCHAR2	128	true	ユーザーの名 (ファーストネーム)。
LAST_NAME	VARCHAR2	128	true	ユーザーの姓。
TITLE	VARCHAR2	128	true	ユーザーの役職。
DEPARTMENT	VARCHAR2	128	true	ユーザーが所属する部門。
ORGANIZATION	VARCHAR2	128	true	ユーザーが所属する組織。
COUNTRY	VARCHAR2	128	true	ユーザーの国籍。
EMAIL	VARCHAR2	128	true	ユーザーの E メール・アドレス。
ADDRESS1	VARCHAR2	128	true	ユーザーの住所の 1 行目。
ADDRESS2	VARCHAR2	128	true	ユーザーの住所の 2 行目。
PHONE1	VARCHAR2	20	true	ユーザーの最初の電話番号。
PHONE2	VARCHAR2	20	true	ユーザーの 2 つ目の電話番号。
PHONE3	VARCHAR2	20	true	ユーザーの 3 つ目の電話番号。
STATUS	INT32		true	ユーザー・アカウントの状態を区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1: アクティブ</li><li>• 2: 無効</li><li>• 3: LDAP から削除済み</li></ul>

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ALT_LOGIN	VARCHAR2	256	true	ローカル・システム・リソースへのアクセスを制御するために Campaign によって使用される UNIX の代替ログイン。このログインは、ローカル UNIX マシンの有効なユーザー・アカウントに一致している必要があります。
PW_EXPIRATION_DATE	DATETIME		true	ユーザーのパスワードの有効期限日。これは、「有効期間 (Validity)」(日単位) 構成プロパティと連動して機能します。
PW_EXPIRATION_POLICY	INT32		true	未使用のフィールドです。
PW_FAILED_TRIES	INT32		true	連続して失敗したログイン試行の回数を記録します。これは、「ログイン失敗時に許容される最大試行回数 (Maximum failed login attempts allowed)」プロパティと連動して機能します。
PW_RESET	INT32		true	ユーザーに新規パスワードの選択を求めるために使用するフィールド。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: リセットは必要なし</li> <li>• 1: リセットが必要</li> </ul>
PARTITION_ID	INT32		true	ユーザーが所属するパーティション。
SYSTEM_DEFINED	INT32		true	ユーザーのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: ユーザー定義のユーザー (IBM Marketing ユーザーによって作成されます)</li> <li>• 1: システム定義のユーザー (IBM Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> <li>• 2: 同期されたユーザー (外部システムからインポートされます)</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		false	このユーザー・アカウントを作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ユーザー・アカウントが作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ユーザーが最後に更新された日付。
COREMETRICS_USER	VARCHAR2	256	true	ユーザーに関連付けられた Coremetrics® ログイン名を保管します。



## USM\_ROLE

役割ベースのアクセス制御 (RBAC) に使用される役割を保管します。すべての IBM EMM アプリケーションが RBAC を使用するわけではないことに注意してください。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	役割の内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	64	false	役割の名前。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	役割の説明。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	true	IBM EMM ユーザー・インターフェースでの役割の表示名。
TYPE	INT32		true	<p>役割のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 0: ユーザー定義の役割</li><li>• 1: オブジェクト所有者</li><li>• 2: フォルダー所有者</li><li>• 100: パーティション</li><li>• 101: グローバル・ポリシー</li><li>• 102: ポリシー</li><li>• 103: グループ</li></ul> <p>オブジェクト所有者およびフォルダー所有者は両方とも、システム定義の役割です。役割がシステム定義であっても、管理者は各役割に関連付ける権限を指定できることに注意してください。これらの役割は、多くの IBM Marketing アプリケーションによって使用されるデータを編成するフォルダー/オブジェクトのパターンをサポートします。</p>

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
APPLICATION	INT32		true	役割を定義できるコンテナのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 100: Marketing Platform</li> <li>• 101: Campaign</li> <li>• 102: Marketing Operations</li> <li>• 103: eMessage</li> <li>• 104: Contact Optimization</li> <li>• 105: Interact</li> <li>• 107: Leads</li> <li>• 108: Reports</li> <li>• 110: Distributed Marketing</li> <li>• 111: CustomerInsight</li> <li>• 112: Digital Analytics for On Premises</li> </ul>
PARTITION_ID	INT32		true	役割が所属するパーティション。
STATE	INT32		false	状態。
NODE_PATH	VARCHAR	4000	true	役割階層 (上位) のノードへのパス。
SYSTEM_DEFINED	INT32		true	役割のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: ユーザー定義の役割 (IBM EMM ユーザーによって作成されます)</li> <li>• 1: システム定義の役割 (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		false	役割を作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	役割が作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	役割が最後に更新された日付。

## USM\_ROLE\_ROLE\_MAP

役割階層をサポートするデータを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ROLE_ID	INT64		false	役割の ID。
PARENT_ROLE_ID	INT64		false	親役割の ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	役割階層が作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	役割階層が更新された日付。

## USM\_USER\_ROLE\_MAP

ユーザーと役割の関係を保管します。役割における暗黙の権限は、Marketing Platform に固有のものではなく、細分化されたセキュリティーを使用する IBM EMM アプリケーションすべてに適用されます。Marketing Platform は割り当てられた権限を保管しますが、各アプリケーションは権限を適用します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
USER_ID	INT64		false	役割を割り当てられたユーザーの ID。
ROLE_ID	INT64		false	ユーザーに割り当てられた役割の ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	割り当てが作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	割り当てが更新された日付。

## USM\_PERMISSION

権限を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	権限の内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	322	false	権限の名前。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	権限の説明。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	true	ユーザー・インターフェースでの権限の表示名。
TYPE	INT32		false	権限のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1: パーティション・レベルの権限</li><li>• 2: ポリシー・レベルの権限</li></ul>

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
APPLICATION	INT32		true	役割を定義できるコンテナのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 100: Marketing Platform</li> <li>• 101: Campaign</li> <li>• 102: Marketing Operations</li> <li>• 103: eMessage</li> <li>• 104: Contact Optimization</li> <li>• 105: Interact</li> <li>• 106: Predictive Insight</li> <li>• 107: Leads</li> <li>• 108: Reports</li> <li>• 110: Distributed Marketing</li> <li>• 111: CustomerInsight</li> <li>• 112: Digital Analytics for On Premises</li> </ul>
PARTITION_ID	INT32		true	この権限が所属するパーティション。主にレポート作成機能における動的権限によって使用されます。
CATEGORY	VARCHAR2	256	true	カテゴリー
PERMISSION_ORDER	INT32		true	権限の順序。
OBJECT_NAME	VARCHAR	100	true	オブジェクト名。
OPERATION_NAME	VARCHAR	256	true	操作名。
PERMISSION_MASK	INT32		true	権限マスク。
OBJECT_INSTANCE_CHECK	INT32		false	オブジェクト・インスタンスをチェックするかどうかを指定します。
VALID_MEMBER_ROLE_TYPES	INT32		true	この権限の有効なメンバー役割のタイプ。
SYSTEM_DEFINED	INT32		true	権限のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: ユーザー定義の役割 (IBM EMM ユーザーによって作成されます)</li> <li>• 1: システム定義の役割 (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		false	役割を作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		true	役割が作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	役割が最後に更新された日付。

## USM\_ROLE\_PERMISSION\_MAP

権限の関係を役割に保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ROLE_ID	INT64		false	権限を割り当てられた役割の ID。
PERMISSION_ID	INT64		false	役割に割り当てられた権限の ID。
PERMISSION_STATE	INT32		false	権限の状態。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 0: 拒否</li><li>• 1: 許可</li><li>• 2: 継承</li></ul>
CREATE_DATE	DATETIME		false	割り当てが作成された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	割り当てが最後に更新された日付。

## USM\_CONFIGURATION

「構成」ページで Marketing Platform を使用して管理される構成プロパティを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	構成要素の内部数値 ID。
ELEMENT_TYPE	INT32		false	構成要素のタイプ。有効な値は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"><li>1. スイート</li><li>2. アプリケーション</li><li>3. カテゴリー</li><li>4. セクション</li><li>5. スtring・プロパティ</li><li>6. 数値プロパティ</li><li>7. 時間プロパティ</li><li>8. テキスト・プロパティ</li><li>9. 複数値プロパティ</li><li>10. チェック・ボックス・プロパティ</li><li>11. ドロップダウン・プロパティ</li><li>12. ラジオ・プロパティ</li><li>13. ファイル・プロパティ</li><li>14. URL プロパティ</li><li>15. 整数プロパティ</li></ol>
INTERNAL_NAME	VARCHAR2	64	false	構成要素の内部名。
PARENT_ID	INT64		true	構成要素の ID。この ID によって、構成プロパティの組織が階層で使用できるようになります。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
CONFIGURATION_ORDER	INT32		true	親でのこの要素の位置。
HIDDEN	INT8		false	構成要素の表示可能性を制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
READ_ONLY	INT8		false	構成要素を更新できるかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
REMOVABLE	INT8		false	構成要素を削除できるかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
ALLOW_BLANK	INT8		false	要素の値を空白にできるかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
PREFERENCE	INT8		false	構成要素がユーザー設定を表現するかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
TEMPLATE	INT8		false	新規構成要素を作成するためのテンプレートとしてこの構成要素を使用するかどうかを制御するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: False</li> <li>• 1: True</li> </ul>
DISPLAY_NAME_KEY	VARCHAR	64	true	国際化された名前を検索するために使用されるキー。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	true	国際化された名前を検出できない場合のデフォルト表示名。
DISPLAY_WIDTH	INT32		true	表示する最大文字数。
DESCRIPTION_KEY	VARCHAR	256	true	国際化された説明を検索するために使用されるキー。
DEFAULT_KEY	VARCHAR	64	true	ストリング・プロパティのローカライズ・デフォルト値を検索するために使用されるキー。
DEFAULT_VALUE	FLOAT		true	数値タイプのデフォルト値。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
USAGE_NOTE	VARCHAR2	256	true	使用方法に関する説明 (ローカライズまたは表示されません)。
VALIDATION_CLASS	VARCHAR	256	true	検証に使用されるオプションのカスタム・クラス。
OWNER	VARCHAR	64	true	構成要素の所有者。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	構成が最後に更新された日付。
NS_THREAD	INT32		false	ネスト設定されたスレッド。
NS_LEFT	INT32		false	ネスト設定された左ポインター。
NS_RIGHT	INT32		false	ネスト設定された右ポインター。
VERSION	INT32		true	ハイバネート・オブティミスティック・ロックに使用されるフィールド。

## USM\_CONFIGURATION\_VALUES

「構成」 ページで Marketing Platform を使用して管理される構成プロパティの値を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
CONFIGURATION_ID	INT64		false	格納する構成の ID。
CONFIGURATION_ORDER	INT32		false	親でのこの値の順序。
ENVIRONMENT_ID	INT32		false	異なる環境に対して異なる値を指定できるようにする ID。
USER_ID	INT64		false	ユーザー設定の上書き (およびその設定を適用するユーザー) を識別します。
PREDEFINED	INT8		false	構成値のタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: ユーザー定義の値 (IBM EMM ユーザーによって作成されます)</li> <li>1: システム定義の値 (Marketing Platform を最初にインストールしたときから存在します)</li> </ul>
SELECTED	INT8		false	値が選択されているかどうかを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 未選択の選択項目</li> <li>1: 選択済み</li> </ul>
STRING_VALUE	VARCHAR2	1024	true	ストリング値プロパティ・タイプに適用可能なストリング値。
NUMERIC_VALUE	FLOAT		true	数値プロパティ・タイプに適用可能な数値。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
DATE_VALUE	DATETIME		true	日付プロパティ・タイプに適用可能な日付値。
VERSION	INT32		true	ハイバネート・オブティミスティック・ロックに使用されるフィールド。

## USM\_AUDIT

監査イベントに関するデータを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	監査項目の内部数値 ID。
EVENT	VARCHAR	100	false	監査イベント。
DESCRIPTION	VARCHAR2	1024	true	監査イベントの説明。
DETAILS	VARCHAR2	2000	true	監査イベントに関する追加の詳細。
TYPE	INT32		true	監査イベントのタイプ。
HOST_NAME	VARCHAR2	256	true	アプリケーションにアクセスするために使用されるホスト・マシンの名前。
BROWSER	VARCHAR2	256	true	アプリケーションにアクセスするために使用されるブラウザの詳細。
REQUEST	VARCHAR	4000	true	監査イベントを生成した要求の URL。例えば、パスワードの変更は、ユーザーの初回ログイン時にログイン・ページから開始されることもありますし、「パスワードの変更」リンクをクリックしてユーザーの詳細ページから開始されることもあります。
USER_NAME	VARCHAR2	256	true	アクションを実行したユーザーのログイン名。
PARTITION_ID	INT64		false	監査イベントのパーティション ID。
SEVERITY	VARCHAR2	50	false	監査イベントの重大度。
AUDIT_DATE	DATETIME		true	監査イベントが発生した日付。

## USM\_AUDIT\_BACKUP

バックアップの監査イベント・データを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	監査項目の内部数値 ID。
EVENT	VARCHAR	100	false	監査イベント。



フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
DESCRIPTION	VARCHAR2	1024	true	監査イベントの説明。
DETAILS	VARCHAR2	2000	true	監査イベントに関する追加の詳細。
TYPE	INT32		true	監査イベントのタイプ。
HOST_NAME	VARCHAR2	256	true	アプリケーションにアクセスするために使用されるマシンの名前。
BROWSER	VARCHAR2	256	true	アプリケーションにアクセスするために使用されるブラウザ。
REQUEST	VARCHAR	4000	true	監査イベントを生成した要求の URL。例えば、パスワードの変更は、ユーザーの初回ログイン時にログイン・ページから開始されることもありますし、「パスワードの変更」リンクをクリックしてユーザーの詳細ページから開始されることもあります。
USER_NAME	VARCHAR2	256	true	アクションを実行したユーザーのログイン名。
PARTITION_ID	INT64		false	監査イベントのパーティション ID。
SEVERITY	VARCHAR2	50	false	監査イベントの重大度。
AUDIT_DATE	DATETIME		true	監査イベントが発生した日付。

## USM\_DB\_ACCESS

IBM EMM アプリケーションのユーザーがアクセス可能なデータ・ソース、および IBM EMM アプリケーションがアクセス可能なデータ・ソースへのシステム・レベルのアクセスを保管します (LDAP 接続情報など)。Marketing Platform は、独自のシステム・テーブルに関する接続情報を保管するために、このテーブルを使用しないことに注意してください。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
USER_ID	INT64		false	ユーザーの内部 ID。
PARTITION_ID	INT64		false	このデータ・ソースにアクセス可能なパーティション。
DATA_SOURCE	VARCHAR2	256	false	データ・ソースの名前
DB_LOGIN	VARCHAR2	256	true	データ・ソースにログインするために使用されるユーザー名。
DB_PASSWORD	VARCHAR	255	true	データ・ソースにログインするために使用される暗号化されたパスワード。
CREATE_DATE	DATETIME		false	このデータ・ソース項目が定義された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	このデータ・ソース項目が最後に更新された日付。

## USM\_APPLICATION

Marketing Platform に登録された IBM EMM アプリケーションを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
APP_ID	INT32		false	Marketing Platform に登録された IBM EMM アプリケーションの内部数値 ID。
APP_NAME	VARCHAR	64	false	Marketing Platform に登録された IBM EMM アプリケーションのストリング ID。このテーブルの DISPLAY_NAME フィールドに表示名が指定されていない場合、この ID は Marketing Platform ユーザー・インターフェースでの表示名としても機能します。
APP_DESC	VARCHAR	256	true	Marketing Platform ユーザー・インターフェースに表示されるアプリケーションの説明。
APP_TOKEN	VARCHAR	100	true	IBM EMM アプリケーションのパブリック・ストリング ID。Marketing Platform API を使用してサービスを呼び出すときに、IBM EMM アプリケーションがそれ自体を識別するために使用されます。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	256	false	Marketing Platform ユーザー・インターフェースでの IBM EMM アプリケーションの表示名。表示名がここに指定されていない場合、その代わりに APP_NAME フィールドが使用されます。

## USM\_TOKEN

一時的なトークンの使用によるシングル・サインオンをサポートする情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TOKEN_ID	VARCHAR	128	false	トークン値。
USER_ID	INT32		false	トークンを要求するユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	トークンが作成された日付。
DEST_APP	INT32		false	ユーザーがナビゲートしているアプリケーション。

## USM\_PW\_HISTORY

パスワードの再利用を制御するために、ユーザー・パスワード履歴を保管します。保管されるパスワードの数は、「パスワード履歴の数」プロパティの値に基づきます。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
USER_ID	INT32		false	このパスワードを最近使用したユーザーの ID。
SEQ_NUM	INT32		false	このパスワードの使用時期を、そのユーザーの他のパスワードと比較して表す数値。数値が大きいほど、最近使用されたパスワードを表します。
PASSWD	VARCHAR	255	true	暗号化されたパスワード。
ARCHIVE_DATE	DATETIME		false	そのパスワードがユーザーによって最後に選択された日時。

## USM\_DB\_RESOURCE\_BUNDLE

リソース・バンドルに関する情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	リソース・バンドルの内部数値 ID。
NAME	VARCHAR	256	false	リソース・バンドルの名前。
LOCALE	VARCHAR	16	true	リソース・バンドルのロケール。
APPLICATION	INT32		true	リソース・バンドルのアプリケーション ID。
BUNDLE_PROPERTIES	CLOB		true	リソース・バンドルのプロパティ。

## USCH\_TASK

すべてのスケジュール・タスク (イベント・トリガーおよび時間ベース) に関するメタデータを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TASKID	INT64		false	スケジュール・タスクの内部数値 ID。
NAME	VARCHAR2	150	false	ユーザーが入力したスケジュール・タスク名。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	ユーザーが入力したスケジュール・タスクの説明。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
GROUPID	VARCHAR	100	false	タスクが関連付けられたスロットル・グループの ID。
OBJECTTYPE	VARCHAR2	256	true	スケジュール・オブジェクトのタイプ。
OBJECTID	VARCHAR	256	true	クライアント・アプリケーションでのスケジュール・オブジェクトの ID。
OBJECTNAME	VARCHAR2	256	true	クライアント・アプリケーションでのスケジュール・オブジェクトの名前。
PRODUCTID	VARCHAR	100	true	スケジュール・オブジェクトが所属する製品の ID。
PAYLOAD	VARCHAR	4000	true	スケジュール・プロセスを実行するために、クライアント・アプリケーションが必要とするランタイム・パラメーター。
SCHEDULENAME	VARCHAR2	256	true	反復パターンの名前。
SCHEDULE	VARCHAR	100	true	反復パターンのクローン式ストリング。
SCHEDULESTART	DATETIME		true	反復パターンが開始される日時。
SCHEDULEEND	DATETIME		true	反復パターンが停止する日時。
LISTENINGTRIGGER	VARCHAR2	100	true	タスクを開始するために、タスクが listen するトリガー・ストリング (イベント・ベースのタスクによってのみ使用されます)。
CREATEDBY	INT64		false	タスクを作成したユーザーの ID。
PARTITIONID	INT64		false	タスクを作成したユーザーのパーティション ID。
CREATEDTIME	DATETIME		false	タスクが作成された日時。
MODIFIEDBY	INT64		false	タスクを最後に修正したユーザーの ID。
MODIFIEDTIME	DATETIME		false	タスクが最後に修正された日時。
STATUS	VARCHAR	100	false	スケジュールの内部ステータス。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• スケジュール済み</li> <li>• トリガー済み</li> </ul>
TIMEZONE	VARCHAR2	100	false	タスクをスケジュールしているユーザーのタイム・ゾーン。
OCCURRENCES	INT64		false	ユーザーによって指定されるオカレンス。
SOURCE	VARCHAR2	50	false	API Vs Server がタスクを作成しました。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ISHIDDEN	VARCHAR2	12	false	「タスク・リスト」ページでこのタスクが表示されるかまたは非表示にされるかを指定します。

## USCH\_TASK\_DEPENDANCY

タスク ID およびその依存タスクを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TASK_ID	INT64		false	依存関係が定義されている、タスク・テーブルからのタスク ID。
DEPENDS_ON_TASK_ID	INT64		false	TASK_ID フィールドで識別されたタスクが依存している、タスク・テーブルからのタスク ID。

## USCH\_TRIGGER

SUCCEEDED イベントまたは FAILED イベントに関連付けられたトリガーに関する情報を、スケジューラー用に保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TASKID	INT64		false	トリガーが関連付けられたタスクの ID。
EVENT	VARCHAR	100	false	トリガーのイベント・タイプ (SUCCEEDED または FAILED)。
TRIGGERSTRING	VARCHAR2	100	true	待ちタスクをトリガーするために使用される発信トリガー・ストリング。

## USCH\_RUN

現行のスケジューラーの実行、および完了したスケジューラーの実行のための情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
RUNID	INT64		false	実行の内部 ID。
TASKID	INT64		false	実行が属するタスクの ID。
STARTDATE	DATETIME		false	実行が開始された日時。
STATUS_CHANGED_DATE	DATETIME		true	最後の実行ステータスが変更された日時。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
LASTUPDATE	DATETIME		true	スケジュール・オブジェクトが属する製品から最後の実行ステータスを受信した日時。
TASKSTATE	VARCHAR	100	false	クライアント・アプリケーションから受信したステータスに基づき、以下のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• キューに入れられている</li> <li>• 実行中</li> <li>• 完了</li> <li>• 不明</li> <li>• 取り消し済み (CANCELED)</li> </ul>
STATUS	VARCHAR2	100	true	タスクによって開始されたプロセスの、スケジュール・オブジェクトが属する製品によってレポートされるステータス。製品は、少なくとも SUCCEEDED または FAILED をレポートします。通知目的のためだけに、追加のステータスをレポートする場合があります。
STATUSDETAIL	VARCHAR	4000	true	実行に関する追加の詳細。スケジュール・オブジェクトが属する製品によってレポートされます。
PAYLOAD	VARCHAR	4000	true	スケジュール・プロセスを実行するために、クライアント・アプリケーションが必要とするランタイム・パラメーター。

## USM\_ID\_TABLE

オブジェクト・タイプのクラスに関するユニーク ID の割り振りをサポートする情報を保管します。例えば、新規ユーザーを作成するときに、このテーブルの内容に基づいてユニークな内部 ID が生成されます。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TABLE_NAME	VARCHAR	32	false	ユニーク ID が必要なテーブルの論理名。
TABLE_KEY	VARCHAR	32	false	固有値が必要なテーブルのキー・フィールドの論理名。この名前によって、複数のユニーク・キー・セットを 1 つのテーブルに定義できます。
MAX_ID	INT32		false	最後に割り振られた固有値。

## USM\_ATTRIBUTE

属性に関するメタデータを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
NAME	VARCHAR2	256	false	属性名。
DATATYPE	INT32		false	属性データ・タイプ。
CREATE_DATE	DATETIME		false	この属性が登録された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	この属性が更新された日付。

## USM\_ALERT\_TYPE

既知のアプリケーションの通知タイプおよびスケジューラーの通知タイプを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
APP_ID	INT32		false	アラート・タイプを登録しているアプリケーション。
NAME	VARCHAR2	256	false	アラート・タイプ名。
DISPLAY_NAME_KEY	VARCHAR	256	true	アラート・タイプ名の表示名キー。
GROUP_DISPLAY_NAME_KEY	VARCHAR	256	true	グループ名。
DEFAULT_SUBSCRIPTION	INT32		true	アラート・タイプのデフォルトのサブスクリプション・マスク。
CREATE_DATE	DATETIME		false	このアラート・タイプが登録された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	このアラート・タイプが更新された日付。

## USM\_ALERT\_TYPE\_ATTR

通知タイプの属性マッピング情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
ALERT_TYPE_ID	INT64		false	アラート・タイプへの参照。
ATTRIBUTE_ID	INT64		false	属性への参照。
IS_MANDATORY	INT8		true	属性が必須かどうかを示します。
CREATE_DATE	DATETIME		false	このアラート・タイプが登録された日付。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	このアラート・タイプが更新された日付。

## USM\_NOTIFICATION\_MESSAGE

ロケール固有のメッセージ内容を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
SEVERITY	INT32		false	メッセージ重大度。
HEADER	VARCHAR2	1000	false	ロケールのメッセージ内容。
BODY	VARCHAR2	2000	false	ロケールのメッセージ内容。
HEADER_MARKUP	VARCHAR2	1000	true	ロケールのメッセージ内容。
BODY_MARKUP	VARCHAR2	2000	true	ロケールのメッセージ内容。

## USM\_ALERT

メッセージの重要度やメッセージの日時などの通知メッセージの内容を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
MESSAGE_ID	INT64		false	USM_NOTIFICATION_MESSAGE への参照。
CATEGORY_NAME	VARCHAR2	128	false	ルーティングで使用するアラート・メッセージのカテゴリ。
ALERT_TYPE_ID	INT64		true	このアラートのアラート・タイプを参照します。
IMPORTANCE	INT32		true	配信されるアラートの重要度。
APP_ID	INT32		true	このアラートを生成したアプリケーション。
NOTE	VARCHAR2	512	true	アラートを発行する製品によって判別される、更新またはソース・イベントのトラッキングに関する内部注記。注記はサポート目的にも役立つ必要があります。
SEND_DATE	DATETIME		false	メッセージが送信された日時。
ON_BEHALF	INT64		true	このアラートが送信されているユーザーの代理の ID - オプション。



## USM\_USER\_SUITE\_ALERT

ユーザー固有の通知の詳細を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
USER_ID	INT64		false	アラートの受信者の多くのうちの一人である可能性のあるユーザーの ID。
ALERT_ID	INT64		false	USM_ALERT レコードへの参照。
IS_READ	INT32		true	メッセージが EMM IBM の受信箱から読まれたかどうかを示すフラグ。

## USM\_USER\_EMAIL\_ALERT

E メール・チャンネルによる通知の配信についての情報 (保留中の E メールおよび再試行の回数など) を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
USER_ID	INT64		false	アラート・メッセージの受信者の多くのうちの一人である可能性のあるユーザーの ID。
ALERT_ID	INT64		false	USM_ALERT レコードへの参照。
STATUS	INT32		true	メッセージが配信されたかどうかを示すフラグ。
NUM_RETRY	INT32		true	配信を試みた再試行の回数。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	メッセージの配信が最後に再試行された日時。
DELIVERY_INFO	VARCHAR2	512	true	メッセージの配信についての情報メッセージ。

## USM\_ALERT\_SUBSCRIPTION

ユーザーのアラート・サブスクリプションに関する情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
USER_ID	INT64		false	ユーザーの ID。
ALERT_TYPE_ID	INT64		false	サブスクリプションが保管されているアラート・タイプ。
SUBSCRIBED_CHANNEL	INT32		true	アラートの送信に使用されるチャンネルを識別します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
CREATE_BY	INT64		false	サブスクリプションを送信したユーザーの数値 ID。これは、ユーザー・アカウントの所有者か管理ユーザーのいずれかになります。
CREATE_DATE	DATETIME		false	サブスクリプションが作成された日付。
UPDATE_BY	INT64		true	サブスクリプションを更新したユーザーの数値 ID。これは、ユーザー・アカウントの所有者か管理ユーザーのいずれかになります。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	サブスクリプションが最後に更新された日付。

## USM\_NOTICE

すべてのログイン・ユーザーに即時に表示されるか、またはログインしたときにユーザーに表示されるアラートを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	管理トラッキングのみのための内部注記。
EXPIRY_DATE	DATETIME		true	アラートの有効期限が切れる日時。
IS_ACTIVE	INT32		true	アラートがまだアクティブかどうかを示すフラグ。
APP_ID	INT32		true	システム・アラートを発行したアプリケーション。
APP_TOKEN	VARCHAR	256	true	発行元製品が更新を確認するときに検索のために使用するトークンを追跡します。
SHOW_ON	INT32		false	ユーザーがログインしたときのみアラートが表示されるか、ログイン・ユーザーにも表示されるかを示すフラグ。
CREATE_BY	INT64		true	アラートを作成したユーザーの数値 ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	アラートが作成された日付。
UPDATE_BY	INT64		true	アラートを更新したユーザーの数値 ID。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	アラートが最後に更新された日付。

## USM\_NOTICE\_MESSAGE\_MAP

メッセージへのシステム・アラートのマッピング情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
NOTICE_ID	INT64		false	システム・アラートの ID。
LOCALE	VARCHAR2	20	false	参照されるメッセージのロケール。
MESSAGE_ID	INT64		false	USM_NOTIIFICATION_MESSAGE テーブルのメッセージへの参照。

## USM\_NOTICE\_TARGET

アラート受信者のタイプおよび ID を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
NOTICE_ID	INT64		false	システム・アラート (USM_NOTICE テーブルのレコード) への参照。
TGT_ACCESS_CLASS	INT32		false	これは、以下のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1: PARTITION</li><li>• 2: APPLICATION</li><li>• 3: GROUP</li><li>• 4: PERMISSION</li></ul>
TGT_ACCESS_CLASS_ID	INT64		false	システム・アラートのオーディエンスを識別します。

## DF\_CONFIG

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。データ・フィルター構成を定義します。各データ・フィルター構成によって、共通のアクセス基準を共有する一連のオブジェクトの有効範囲が設定されます。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
CONFIG_ID	INT64		false	構成の内部数値 ID。
CONFIG_NAME	VARCHAR	64	false	構成の名前。

## DF\_FIELDCONSTRAINT

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。すべてのフィルターの単一フィールドの述部を定義します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
FILTER_ID	INT64		false	フィールド制約が適用されるフィルターを識別します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	フィルター基準が適用されるフィールド。
EXPRESSION	VARCHAR	64	false	フィールドに適用されるフィルター基準。

## DF\_FILTER

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。ユーザーおよびグループを割り当てることができる一連の基準を定義します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
FILTER_ID	INT64		false	フィルターの数値 ID。
CONFIG_ID	INT64		false	フィルターが関連付けられるデータ・フィルター構成。データ・フィルター構成は、DF_CONFIG テーブルに定義されます。
CONSTRAINT_HASH	INT32		false	フィルターを素早く検索するために使用するフィルターのハッシュ・コード化表現。

## DF\_LOGICAL\_FIELD

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。データ・フィルターを作成するために使用される論理フィールドを定義します。このテーブルは、これらの論理フィールドを実際のテーブルの物理フィールドにマップします。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	論理フィールドの数値 ID。
LOGICAL_NAME	VARCHAR	64	false	論理フィールドの名前。
TYPE	VARCHAR	64	false	論理フィールドのタイプ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>java.lang.String</li> <li>java.lang.Long</li> <li>java.lang.Double</li> <li>java.lang.Boolean</li> <li>java.util.Date</li> </ul>

## DF\_TABLE

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。DF\_CONFIG テーブルで定義されたとおりにデータ・フィルター構成との関連によって保護された物理テーブルを識別します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TABLE_ID	INT64		false	物理テーブルの数値 ID。
TABLE_NAME	VARCHAR	64	false	データベース表の実際の名前。

## DF\_TABLE\_FIELD

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。実際のテーブルのフィールドを対応する論理フィールドにマップします。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
TABLE_ID	INT64		false	表 ID。
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	実際のテーブル・フィールドに対応する論理フィールド。
PHYSICAL_NAME	VARCHAR	64	false	実際のテーブル・フィールドの名前。

## DF\_AUDIENCE

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。Campaign によって使用される意味でのオーディエンスを定義します。オーディエンスは、1 つのテーブルでデータの複数の論理セット (つまり、非正規化されたデータ) をサポートするメカニズムです。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
AUDIENCE_ID	INT64		false	オーディエンスの数値 ID。
AUDIENCE_NAME	VARCHAR	64	false	オーディエンスの名前。

## DF\_AUDIENCE\_FIELD

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。テーブルに含まれるオーディエンスを区別するテーブルのフィールドを識別します。現在、この概念はデータ・フィルターによって使用されませんが、Campaign カタログとの整合性のために追加されました。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
AUDIENCE_ID	INT64		false	区別フィールドが識別されるオーディエンス。
LOGICAL_FIELD_ID	INT64		false	このオーディエンスに属するレコードを識別する論理フィールドの 1 つ。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
FIELD_ORDER	INT32		false	このオーディエンスに属するレコードを識別するために使用されるフィールドのセットを順序付けします。これは、Campaign カタログとの整合性のために存在します。

## DF\_AUDIENCE\_TABLE

データ・フィルター用の複数あるテーブルの 1 つ。一連のデータ・フィルターを特定のオーディエンス・テーブルのペアに関連付けます。一連のデータ・フィルターは、DF\_CONFIG テーブルで定義されたとおりにデータ・フィルター構成によって識別されることに注意してください。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
AUDIENCE_ID	INT64		false	データ・フィルターのセットに関連付けられるオーディエンス。
TABLE_ID	INT64		false	データ・フィルターのセットに関連付けられるテーブル。
CONFIG_ID	INT64		false	オーディエンスとテーブルのペアに関連付けられるデータ・フィルターのセット。

## OLS\_ASSIGNMENT

プリンシパル (つまり、ユーザーまたはグループ) を特定の名前空間にある特定のオブジェクト ID に関連付けます。このテーブルは、データ・フィルターよりも広い範囲に適用されます。データ・フィルターは、このテーブルを以下のように使用します。

- NAMESPACE\_ID は、DF\_CONFIG テーブル (つまり、一連のデータ・フィルター) に定義されているとおりに、特定のデータ・フィルター構成に対応します。
- DATAOBJECT\_ID は、その構成を持つ特定のデータ・フィルターに対応します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
NAMESPACE_ID	INT64		false	DATAOBJECT_ID フィールドが適用する連のオブジェクトを識別します。
DATAOBJECT_ID	INT64		false	割り当てが行われるオブジェクト。
PRINCIPAL_ID	INT64		false	オブジェクトに割り当てられるユーザーまたはグループ。
PRINCIPAL_TYPE	INT32		false	プリンシパルのタイプを区別するフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1: ユーザー</li> <li>• 2: グループ</li> </ul>

## OLS\_DATAOBJECT

ユーザーおよびグループを割り当てることができるオブジェクトを保管します。以下の点に注意してください。

- このテーブルではオブジェクトの ID のみを表し、オブジェクト状態は表しません。
- ID は、名前空間内でユニークである必要があります (つまり、1 次キーは NAMESPACE\_ID と DATAOBJECT\_ID で構成されます)。
- データ・フィルターのコンテキストでは、NAMESPACE\_ID は DF\_CONFIG テーブルの CONFIG\_ID に対応し、DATAOBJECT\_ID は DF\_FILTER テーブルの FILTER\_ID に対応します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
DATAOBJECT_ID	INT64		false	オブジェクトのユニーク ID (名前空間内)。
NAMESPACE_ID	INT64		false	ユニーク ID を持つオブジェクト・セットでの有効範囲を表します。
DATAOBJECT_TAG	VARCHAR	128	false	アプリケーション固有の目的で、オブジェクト ID に関連付けることができるオプションのストリング。

## OLS\_NAMESPACE

名前空間を保管します。各名前空間は一連のオブジェクトを表します。名前空間内のオブジェクト ID のセットは、ユニークである必要があります。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
NAMESPACE_ID	INT64		false	名前空間の数値 ID。
NAMESPACE_NAME	VARCHAR	64	false	名前空間の名前。

## UAR\_COMMON\_SQL

レポート作成スキーマを作成するために、レポート作成機能のスキーマ・ジェネレーターによって使用される SQL フラグメントを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
SQL_NAME	VARCHAR	99	false	SQL フラグメントの内部名。
PRODUCT_CODE	VARCHAR	256	false	SQL フラグメントの対象となる製品のコード。
SELECT_CLAUSE	VARCHAR	2048	true	SQL ステートメントの SELECT 部分。
FROM_CLAUSE	VARCHAR	4000	true	SQL ステートメントの FROM 部分。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
GROUP_BY_CLAUSE	VARCHAR	1024	true	SQL ステートメントの GROUP BY 部分。

## USM\_ACTIVE\_PORTLET

ダッシュボードの事前定義されたポートレットに関する情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
APP_ID	INT32		false	事前定義されたポートレットが派生するアプリケーションの ID。
PORTLET_ID	VARCHAR	60	false	事前定義されたポートレットの内部数値 ID。
PARTITION_ID	INT32		false	ポートレットが所属するパーティション。
IS_ENABLED	INT32		false	事前定義されたポートレットをダッシュボードに組み込むことができるかどうかを示すフラグ。

## USM\_DASHBOARD

ダッシュボード情報を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	100	true	IBM EMM ユーザー・インターフェースでのダッシュボードの表示名。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	IBM EMM ユーザー・インターフェースでのダッシュボードの説明。
STATUS	INT32		false	ダッシュボードの状況。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効</li> <li>無効</li> </ul>
DASHBOARD_TYPE	INT32		false	ダッシュボードがパブリックであるか、プライベートであるかを示すフラグ。
MAIN_DASHBOARD	INT32		false	ダッシュボードがパーティションに対してグローバル・ダッシュボードであるかどうかを示すフラグ。パーティションごとに 1 つのグローバル・ダッシュボードのみが存在できます。
PARTITION_ID	INT32		true	ダッシュボードが所属するパーティション。



フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
SYSTEM_DEFINED	INT32		false	ダッシュボードがシステム定義されているかどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - システム定義</li> <li>• 1- ユーザー定義</li> </ul>
ALLOW_USER_LAYOUT	INT32		true	ユーザーがダッシュボードのレイアウトの変更を許可されているかどうかを示すフラグ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 許可されていない</li> <li>• 1 許可されている</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		false	ダッシュボードを作成したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ダッシュボードが作成された日時。
UPDATE_BY	INT64		true	ダッシュボードを更新したユーザーの ID。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ダッシュボードが更新された日時。

## USM\_DASHBOARD\_PORTLET

ダッシュボード・ポートレットの属性を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	ポートレットの内部数値 ID。
DISPLAY_NAME	VARCHAR2	100	true	IBM EMM ユーザー・インターフェースでのポートレットの表示名。
DESCRIPTION	VARCHAR2	512	true	IBM EMM ユーザー・インターフェースでのポートレットの説明。
ACTIVE_SYSTEM_PORTLET_REF	VARCHAR2	1000	true	USM_ACTIVE_PORTLET テーブルの PORTLET_ID への参照。
PORTLET_TYPE	INT32		false	ポートレットのタイプ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パブリック</li> <li>• プライベート</li> </ul>
SYSTEM_DEFINED	INT32		false	ポートレットがシステム定義されているか、またはユーザーが作成したかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• システム定義</li> <li>• ユーザー定義</li> </ul>

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
STATUS	INT32		false	ダッシュボードの状況。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 - 有効</li> <li>• 0 - 無効</li> </ul>
IFRAME_PORTLET_ID	INT64		true	iframe ポートレットの ID。
PARTITION_ID	INT32		true	ポートレットが所属するパーティションの ID。
CREATE_BY	INT64		false	ポートレットを作成したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ポートレットが作成された日時。
UPDATE_BY	INT64		true	ポートレットを更新したユーザーの ID。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ポートレットが更新された日時。

## USM\_DASH\_PORT\_IFRAME\_DET

ポートレットの構成設定を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	ポートレットの内部数値 ID。
SOURCE_URL	VARCHAR2	2000	true	ポートレットの URL。
RELATIVE_PATH_TO_CONTEXT	INT32		false	このフィールドは使用されません。
AUTHENTICATE	INT32		false	このフィールドは使用されません。
AUTHENTICATION_TYPE	INT32		false	ポートレット URL が SSL を使用するかどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - SSL を使用しない</li> <li>• 1 - SSL を使用する</li> </ul>
FORM_SUBMIT_METHOD	INT32		false	ポートレットのフォーム送信メソッド。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• GET の場合 0</li> <li>• POST の場合 1</li> </ul>
USER_NAME	VARCHAR2	200	true	ポートレット認証のユーザー名。
PASSWORD	VARCHAR2	1000	true	ポートレット認証のパスワード。
HIDDEN_VARIABLES	VARCHAR2	2000	true	ポートレット URL で送信される他の非表示の変数。
HTML_ATTRIBUTES	VARCHAR2	2000	true	ポートレット URL の他の HTML 属性。
ARCHIEVE	INT32		true	このフィールドは使用されません。
ARCHIEVE_NAME	VARCHAR2	20	true	このフィールドは使用されません。
ARCHIEVE_DATE	DATETIME		true	このフィールドは使用されません。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ARCHIEVE_BY	INT64		true	レコードをアーカイブしたユーザーの ID。
CREATE_BY	INT64		false	ポートレットを作成したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ポートレットが作成された日時。
UPDATE_BY	INT64		true	ポートレットを更新したユーザーの ID。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ポートレットが更新された日時。

## USM\_DASH\_PORT\_PREF\_MAP

ポートレットおよびダッシュボードの設定の詳細を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	設定の内部数値 ID。
DASHBOARD_ID	INT64		true	ダッシュボードの ID。
PORTLET_ID	INT64		true	ポートレットの ID。
STATUS	INT32		false	ダッシュボードの状況。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効</li> <li>無効</li> </ul>
PORTLET_LAYOUT_DETAILS	VARCHAR2	400	true	ポートレット・レイアウトの詳細。
PORTLET_HEIGHT	INT64		true	ポートレットの高さ。
PORTLET_WIDTH	INT64		true	ポートレットの幅。
LEFT_POSITION	INT64		true	ポートレットの左側。
TOP_POSITION	INT64		true	ポートレットの上部。
PREFERANCE_USER_TYPE	INT32		true	ダッシュボードを作成したユーザーの役割。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 - ユーザー</li> <li>1 - 管理者</li> </ul>
MODIFIED_PORTLET_NAME	VARCHAR2	100	true	関連したダッシュボード内のポートレットの名前。
MODIFIED_DASHBOARD_TITLE	VARCHAR2	100	true	このフィールドは使用されません。
PREF_DASH_PORTLET_TYPE	INT32		false	設定がポートレットに適用されるか、ダッシュボードに適用されるかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 - ポートレット</li> <li>1 - ダッシュボード</li> </ul>

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
PREF_DASH_COGNOS_IS_VIEW	INT32		true	Cognos レポートのポートレットは、ポートレットがアクセスされるたびにライブ・レポートが実行される (isview:false) ように、または管理者が Cognos サーバーでこれを使用できる場合に、保存されたビューが表示される (isview:true) ように構成できます。
CREATE_BY	INT64		false	ダッシュボードにポートレットを配置したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ポートレットがダッシュボードに追加された日時。
UPDATE_BY	INT64		true	ダッシュボードまたはポートレットを更新したユーザーの ID。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ダッシュボードまたはポートレットが更新された日時。

## USM\_DASHBOARD\_USER\_MAP

ダッシュボードへのユーザーの表示権限を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
DASHBOARD_ID	INT64		false	ダッシュボードの ID。
USER_ID	INT64		false	ダッシュボードの表示権限を持つユーザーの ID。
CREATE_BY	INT64		false	ダッシュボードにユーザーを割り当てたユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ユーザーがダッシュボードに割り当てられた日時。

## USM\_DASH\_MANAGE\_RIGHTS

ユーザーがダッシュボードを管理することを許可する権限を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	ユーザー権限の内部数値 ID。
USER_ID	INT64		false	ダッシュボードを管理するために委任されたユーザーの ID。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
PERMISSION_TYPE	INT32		false	ユーザーが何を管理できるかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 - ポートレット</li> <li>• 1 - ダッシュボード</li> <li>• 2 - ダッシュボードおよびポートレット</li> </ul>
CREATE_BY	INT64		true	ダッシュボードまたはポートレットを作成したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		true	ダッシュボードまたはポートレットが作成された日時。

### USM\_DASHBOARD\_ADMIN\_USER\_MAP

ダッシュボードの管理を許可されたユーザーを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
DASHBOARD_ID	INT64		false	ダッシュボードの ID。
USER_ID	INT64		false	ダッシュボードを管理するために委任されたユーザーの ID。
CREATE_BY	INT64		false	管理権限を委任したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	ダッシュボード管理権限が委任された日時。

### USM\_DASHBOARD\_GROUP\_MAP

ダッシュボードへの管理ユーザーのマッピングを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
DASHBOARD_ID	INT64		false	ダッシュボード ID
ROLE_ID	INT64		false	ダッシュボードへのアクセス権限を与えられたグループの役割の ID。
CREATE_BY	INT64		false	ダッシュボードにアクセス権限を付与したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		false	アクセス権限がダッシュボードに付与された日時。

## USM\_PORT\_QUICKLINK\_PREF

ポートレットのクイック・リンクを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	代理キー。
PORTLET_ID	INT64		false	参照されたポートレットの ID。
PREFERENCE	CLOB		false	ユーザーが選択したポートレットのクイック・リンク。
CREATE_BY	INT64		true	ポートレットを作成したユーザーの ID。
CREATE_DATE	DATETIME		true	ポートレットが作成された日時。
UPDATE_BY	INT64		true	ポートレットを更新したユーザーの ID。
UPDATE_DATE	DATETIME		true	ポートレットが更新された日時。

## USM\_PERSONALIZATION

異なるオブジェクト・タイプのパーソナライゼーション・データを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	パーソナライゼーションの内部数値 ID。
USER_ID	INT64		false	パーソナライゼーションを所有するユーザーの ID。
OBJECT_TYPE_ID	INT64		true	パーソナライゼーションのオブジェクト・タイプ
OBJECT_ID	INT64		false	パーソナライズされたアイテムのオブジェクト ID
PERSONALIZATION_DATA	NCLOB		false	パーソナライゼーションに使用されるデータ
CREATE_DATE	DATETIME		true	パーソナライゼーションが作成された日時。
LAST_MODIFIED_DATE	DATETIME		true	パーソナライゼーションの最終変更日時。

## USM\_OBJECT\_TYPE

パーソナライゼーションに使用されるオブジェクト・タイプを保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	オブジェクト・タイプの内部数値 ID。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
APP_ID	INT32		false	オブジェクト・タイプが属するアプリケーションの ID
NAME	VARCHAR2	128	false	オブジェクト・タイプの名前
DESCRIPTION	VARCHAR2	256	true	オブジェクト・タイプの説明
CREATE_DATE	DATETIME		true	オブジェクト・タイプが作成された日付。
LAST_MODIFIED_DATE	DATETIME		true	オブジェクト・タイプの最終変更日時。

## USM\_OBJECT\_ATTR

オブジェクト・タイプの属性を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	オブジェクト・タイプの内部数値 ID。
OBJECT_TYPE_ID	INT64		false	属性が属するオブジェクト・タイプ
ATTRIBUTE_NAME	VARCHAR2	128	false	属性の名前
ATTRIBUTE_DATA_TYPE	VARCHAR2	128	false	属性のデータ・タイプ
IS_MANDATORY	INT8		true	属性が必須かどうかを示します。
DEFAULT_VALUE	VARCHAR2	128	false	属性のデフォルト値。
CREATE_DATE	DATETIME		true	オブジェクト・タイプが作成された日付。
LAST_MODIFIED_DATE	DATETIME		true	オブジェクト・タイプの最終変更日時。

## USCH\_TASK\_NOTIFICATION

スケジューラーの通知を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	通知の内部数値 ID。
TASK_ID	INT64		false	この通知の作成対象のスケジュール・タスク ID。
USER_ID	INT64		false	通知を作成するユーザー。
TITLE	VARCHAR2	128	false	タスク通知のタイトル。
CONDITION	VARCHAR2	24	true	通知を送信するためにモニターされる条件。
NO_OF_HOURS	INT8		true	通知送信後に経過した時間数。
STATUS	VARCHAR2	16	false	通知がアクティブまたは非アクティブのどちらであるか。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
PROCESSING	VARCHAR2	16	false	マルチスレッド化のために内部的に使用される。
DELIVERY	VARCHAR2	16	false	通知の配信チャネル。
CREATE_DATE	DATETIME		true	通知が作成された日付。
LAST_MODIFIED_DATE	DATETIME		true	通知の最終変更日時。

## USCH\_RUN\_NOTIFICATION

送信済みのスケジューラー通知を保管します。

フィールド	タイプ	長さ	NULL かどうか	説明
ID	INT64		false	送信済み通知の内部数値 ID。
USCH_TASK_NOTIFICATION_ID	INT64		false	USCH_TASK_NOTIFICATION テーブルにある通知の ID。
RUN_ID	INT64		false	通知の送信先の実行 ID。
SENT_DATE	DATETIME		true	通知が送信された日時。



---

## IBM 技術サポートに問い合わせる前に

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口の方が IBM 技術サポートに問い合わせることができます。以下のガイドラインを使用して、問題が効果的かつ成功裏に解決するようにしてください。

貴社の指定のサポート窓口以外の方は、必要な情報についてお客様の IBM 管理者にお問い合わせください。

**注:** 技術サポートが API スクリプトを記述したり作成したりすることはありません。API オファリングを実装するための支援が必要な場合は、IBM Professional Services に連絡してください。

### 収集する情報

IBM 技術サポートに問い合わせる前に、以下の情報を収集してください。

- 問題の性質についての簡単な説明。
- 問題発生時に表示される詳細なエラー・メッセージ。
- 問題を再現するための詳細な手順。
- 関連したログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 『システム情報』で説明されている方法で取得できる、製品とシステム環境に関する情報。

### システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

生じている問題によってログインが妨げられていなければ、この情報の多くを、インストールされている IBM アプリケーションについての情報を示す「バージョン情報」ページから取得できます。

「バージョン情報」ページには、「ヘルプ」>「バージョン情報」と選択することでアクセスできます。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合には、アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを調べてください。

### IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートに連絡する方法については、IBM 製品の技術サポートの Web サイト ([http://www.ibm.com/support/entry/portal/open\\_service\\_request](http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request)) を参照してください。

**注:** サポート要求を入力するためには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。

す。アカウントを IBM 顧客番号と関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510  
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
法務・知的財産  
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
170 Tracer Lane  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## 商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

---

## プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明するこ

と、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような意図による、クッキーを含めたさまざまなテクノロジーの使用に関する情報は、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント」(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja>) の『クッキー、Web ビーコン、その他のテクノロジー』の節を参照してください。





Printed in Japan